

かき「新秋」の加温ハウス栽培による安定生産

かきは日本の秋を彩る代表的な果実であるが、その賞味期間が短いため規模の拡大が難しい。そこで、作期の延長と高収益の確保を図るため、早生の甘柿で糖度の高い「新秋」を、2月はじめ頃から最低温度15℃、最高温度28℃で加温ハウス栽培を行ったところ、9月上旬に糖度20度の高品質果実を、安定多収できることが明らかとなったので紹介する(図1)。

温度管理と成熟の早晚

加温開始時期が2月はじめより10日程度遅いときは最低温度を18℃と高めにし、逆に早いときは12℃程度の低めにしても、ほぼ同じ収穫時期となる(表1)。

収穫の盛りは、どのタイプの加温方式でも満開後160日頃となり、その10日前が収穫始め、10日後が収穫終りとなる。発芽、開花に至るまでの期間は、加温開始時期が遅いほど、また最低温度を高くするほど短くなる(表1)。

生産性と販売結果

高接8年目の樹では、葉果比10程度の管理で、樹冠占有面積1㎡当たり8kg以上と非常に高い生産力を示した。また地元2類市場へ2kg箱で出荷したところ、過去3か年の平均販売価格は、2315円と高価格であった(表2)。

管理の留意点

「新秋」は単為結果しないので必ず受粉樹を混植し、ミツバチの放飼等により受粉を確実にを行う。また適宜灌水を行って果実の肥大を促進させるとともに、枝葉の過繁茂を防ぎ、果実周辺部の通気を良くして、汚損果の発生を防止する。さらに果実重による枝折れを避けるため、大枝から小枝まできめ細かく枝つりする。

(鬼北分場長 松下 丈権)



写真1 新秋

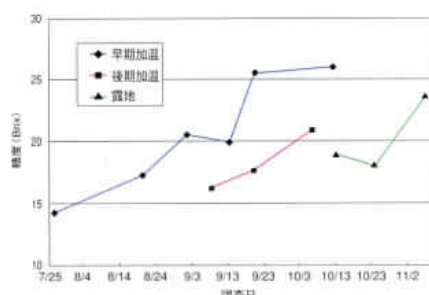


図1 新秋の加温時期と赤道部の糖度(2000)

表1 新秋の加温時期と生育

試験区	調査年	加温 開始日	設定 温度	発芽日	開花盛	収穫盛	加温開始からの日数		発芽日からの日数		開花 ~収穫盛
							発芽	開花	開花	収穫盛	
早期加温	1998	2/9	18~28℃	2/20	3/27	9/4	11	46	35	196	161
	1999	1/20	12~28℃	2/16	3/29	9/7	27	68	41	203	162
	2000	2/2	15~28℃	2/20	3/30	9/5	18	56	38	197	159
後期加温	2000	3/15	15~28℃	3/20	4/17	9/20	5	33	28	184	156
対照露地	2000	—	—	4/3	5/22	10/10	—	—	50	220	170

表2 収量と果実品質

試験区	調査年	収量(kg)		1果重 (g)	調査日	着色 歩合	糖度(Brix)			果面色調(赤道)		
		1樹当り	樹冠占有面積当り				果頂	赤道	肩	L	a	b
早期加温	2000	92	8.2	233	8/20	3.0	22.0	17.3	15.8	57	12	47
					9/1	7.2	25.0	20.5	17.3	54	24	42
後期加温	2000	16**	—	248	9/20	8.6	20.5	17.7	15.1	53	27	42
対照露地	2000	—	—	—	10/12	8.0	21.8	18.9	17.8	58	33	50

注) *: カラーチャート(平核無)

** : 若齡樹